



あしたの情

ゆるやかに活動が続ける SOULFUL BROTHERS は今年で結成 10 周年。その記念として、旧豊橋駅前文化ホールを舞台としたアートプロジェクト「あしたの情」を 2 日間開催します。「文化」の残り香漂う、祭りのあとの会場で、これからの「情」のあり方について私たちは模索します。会場ではアーティスト山本篤の新作映像作品を紹介し、会期中には、SOULFUL BROTHERS の指示書をもとにした公開制作やゲストを招いてのトークイベントなども行います。見落としがちな日常の隙き間を探しだし、ユーモアと僅かな狂いを交えながら、その場所を騒つかせる私たちの活動にご期待ください。

会期

2018年7月7日(土)・8日(日)

OPEN 11:00 CLOSE 19:00

会場

- ① 豊橋市 開発ビル10F(旧豊橋駅前文化ホール)
愛知県豊橋市駅前大通2丁目33-1
- ② 豊橋市 水上ビル(みずのうえ)
愛知県豊橋市駅前大通3丁目118番地先イングロ商店横

企画・主催

Soulful Brothers
ソウルフルブラザーズ

コラムニストのUJI 饅頭とイラストレーターのタレ目を中心としたアーティストッククルー。2008年、相模原市民ギャラリーの1DAY 展覧会「SOULFULDAYS」にて結成。これまでに「Waiting for you」(構想計画のみ、2011年)、「どろどろになりたい」(SUPER OPEN STUDIO、2015年)。

あしたの情 豊橋



お問い合わせ: info@soulfulbrothers.net

華やかな文化の社交場であった 旧豊橋駅前文化ホールで、あしたの情を取り戻す

GO!ハリマオ

物心ついた時には、チョコをむさぼり、文化包丁、文化住宅、文化箸に囲まれ、「文化」に育まれた SOULFUL BROTHERS は、いわゆる育ちのよい大人となってしまった。チョコによって飼いなされたハリマオのように、甘い誘惑に負けて、私たちの情は「文化」によって沈められたのかもしれない。「文化」と名付けられたモノは世に溢れ、炙れ、飛散と悲惨を繰り返し、あの永遠のライバルの亡霊のようにいつまでも私たちに纏わりつくのだ。

かつて華やかな文化の社交場であった旧豊橋駅前文化ホールで、試作と思索を繰り返し、「文化」とは、あるいは忘れてしまった情とは何かについて模索する。

甘ったれた負け犬根性から脱却するには心の叫びが必要だ。チョコの食べ過ぎによって忘れていた情を目覚めさせる。

SOULFUL BROTHERS は祭りのあとの舞台上、会場を揺らし、あしたの旅へのトレーニングをはじめるのだ。

ヒーローの野生を目覚めさせるためだけの「かませ犬」として登場するあの勇敢な戦士ハリマオのように、情の野性を場に映し出す。

喰うか食われるか、最終ラウンドのゴングがホールに鳴り響く。あしたはどっちだ。

展示作家：山本 篤

1980年、東京都生まれ、同地在住。多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。バラエティーに富んだ多彩な映像作品を中心に制作・発表している。主な個展に、「未知なる大陸、重層的な世界」(Art Center Ongoing, 2018年)、「MAM screen07」(森美術館、2017年) 主なグループ展に「奥能登口伝資料館」(奥能登国際芸術祭、2017年)、「国立奥多摩映画館～森の叫び～」(国立奥多摩美術館、2016年) など多数参加。

コーディネーター：加藤 慶

1981年生まれ、神奈川県在住。多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻コミュニケーションデザイン領域修了。主な企画に、「心の平和」(Art Center Ongoing, 2009年)「Super Open StudioDRIVE!」(黄金町バザール2014)、「ズンマチャンゴのかげら箱」(六本木アートナイト2015) など。

イベント

スペシャルトーク

ある情について、考えてみる。
たとえそれが、モックだったとしても。

7月7日(土) 17:00～18:30 @開発ビル10F 参加無料 定員20名
ゲスト：山城大督、山田晋平、山本篤 聞き手：加藤慶

会場の作品を手がかりに、モック(モキュメント)の手法やフェイクなどが人に影響を及ぼすことについてゲストと考えます。



山城 大督

1983年大阪生まれ。名古屋在住。美術家・映像ディレクター・ドキュメント・コーディネーター。映像の時間概念を空間やプロジェクトへ応用し、その場でしか体験できない《時間》を作品として展開する。「Nadegata Instant Party (中崎透+山城大督+野田智子)」メンバー。



山田 晋平

1979年生まれ。舞台映像作家として、演劇、コンテンポラリーダンス、オペラなど、様々な舞台公演に参加。近年では、美術作家とのコラボレーションによるプロジェクト作品の製作も。舞台芸術と現代美術に関わりながら、映像表現の新たな可能性を探る活動を展開する。愛知大学文学部メディア芸術専攻准教授。

オープニング

7月7日(土) 19:00～21:00 @水上ビル ※持ち込み大歓迎

クロージングセレモニー

ファイナルラウンドからの逆転を試みる。

7月8日(日) 18:00～19:00 @開発ビル10F 参加無料

会場の作品を参加者と片付けながら、企画者であるUJI 饅頭とタレ目によるこれからのSOULFUL BROTHERSのあしたについて語ります。

ここが見所!

SOULFUL BROTHERS 結成 10周年企画

誰に頼まれたわけではないけれど、謎のアーティストティックル SOULFUL BROTHERS が3年ぶりに帰ってきます。しかも結成10周年記念プロジェクトは初の2DAYS開催。

どこぞの日常に潜む想いや、いずれ忘却していく些細な文化を甦り出したい気持ちからタイトルは「あしたの情」に決定しました。奇しくも今年は「あしたのジョー」も50周年にあたるらしく、日本最大規模の国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」のテーマも「情の時代」のようです。どちらの情(ジョー)もSOULFUL BROTHERSは応援しています。

山本篤の新作映像作品 20点

会場は、アーティスト山本篤の過去最大スケールの展示がご覧いただけます。

全てを観てまわるには2時間以上かかるので、余裕を持ってお越しください。ただし多くの作品は短編なのでご安心を。ご不明な点などがありましたら、コーディネーターの加藤慶が丁寧にご案内いたします。

旧豊橋駅前文化ホールを贅沢に使った会場構成

メイン展示会場は、再開発にむけて、すでに取り壊しが決まっている開発ビル10階の旧駅前文化ホール。およそ1200㎡の1フロアを豪華に使用し、昭和の時代を感じさせる特徴的な空間を活かした演出、今回のために用意したSOULFUL BROTHERSクルーのタレ目の直筆イラストやUJI 饅頭による書き下しコラムも随所でご覧いただけます。

あの伝説の作品が、いま甦る!!

会期中には、現地の大学生と協力して山本篤が作品を製作します。知る人ぞ知るBOICE PLANNINGでの展示会「百花繚乱(2006年)」で話題をさらった「shout run(2004年)」のリバイバル製作。果たしてどのような奇跡を起こすのでしょうか。

3名の映像作家による山盛りトークショー

展開が読めない手に汗握るスペシャルトークは、参加アーティストの山本篤のほかに山城大督、山田晋平の2人の映像作家をゲストに迎えて、モキュメンタリー※の手法を軸に、それぞれの作品への取組み方について語ります。この話は嘘か真か、真実はどこに?ぜひ会場でお確かめください。

※フィクションを元に作られる“ドキュメンタリー風”の表現方法

僕を呼ぶよ、あの故郷が

会場は過去にあいちトリエンナーレ2016の豊橋会場であることから、再訪した人には、当時を思い出すことでしょう。地域とアートの関係性について、これからの地域と芸術祭の在り方についても考えるきっかけにもなるかもしれません。

トリエンナーレの会期中にあわせて改装した水上ビルにある「みずのうえ」ビジターセンターも今回の展示会場として特別公開しています。懐かしさと切なさを胸に秘め、移ろいゆく時間の流れをご堪能ください。



豊橋駅
東口から
徒歩7分